様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４３２００１７

研究課題名（和文）南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究

研究課題名（英文）General Research on the Publication and Transmission of Islamic Books in the South Asian Languages

研究代表者
東長　靖（Tonaga, Yasushi）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：７０２１７４６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,500,000円

研究成果の概要（和文）：4年間の研究成果として、南アジア諸語イスラーム文献に関するデータベース（日本語・英語）を一般に公開した。これは、出版の時空間検索機能を備え、総計約2万点に上るデータを活用できるものである。このデータベースによって、印刷所・出版社の分布と出版言語などは、上記データベースにより個別事例を調べることが可能になった。
これを元に、１．出版文化が生じることによってペルシア語・アラビア語などからウルドゥー語へと主役が移る際に主として出版されたのは宗教書や物語文学であること、２．南アジア諸語イスラーム文献の流通は、東南アジアを中心としつつも、アラブ諸国や東アフリカなども含まれることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：We have opened for public the database for Islamic literature in South Asian languages both in Japanese and English. This database has a "Time-Map Search" system and includes more than twenty thousand datum. With this database we came to enable to investigate the individual cases about the distribution of the printing houses and publishers and the languages used for the publication. Based on this database, we have found out the following points. 1. Religious books and story literature were the main genre of publication of the period of transition from the Persian/Arabic-dominant situation to the Urdu-dominant one. 2. Islamic Literature published in South Asian Languages were distributed mainly to Southeast Asia, and to Arab and East African countries to some extent.

研究分野：イスラーム学

キーワード：ウルドゥー語　南アジア　イスラーム　出版文化　近現代

１．研究開始当初の背景

全世界のムスリム人口のほぼ三分の一におよぶ四億人以上のイスラーム教徒が居住する南アジアはもっとも多くのムスリムを有する地域である。また地理的には東アジア・東南アジア・中央アジア・中東・東アフリカと接し、それら地域の中心に位置し、人・モノ・概念の流通においてそうした諸地域を繋ぐ大きな拠点の一つとして機能してきた。他方、ヒンドゥー教・仏教・イスラームなど多くの宗教が混在・混淆するという点に他の地域にない南アジアの特色を見出すことができる。多文化多宗教的状況下にありながら、ある意味でイスラーム世界の中心に位置するといういささか相矛盾する状況が南アジア・イスラームに大きな影響を与えてきたことは疑いを容れない。特に近代以降、こうした状況を背景として中東と違った意味で南アジアがイスラーム的諸概念の発信地となったことは忘れられがちであるが、宗教としてのイスラームの在り方、さらには現在のグローバル化したイスラームを考察するうえで欠くべからざる対象の一つである。しかしながら研究対象として南アジア・イスラームがもつ大きな可能性に比して、国内外を問わず十分に注目されていないと言わざるをえない。

南アジア・イスラームが学問的対象として確たる地位を獲得していない理由として「二重の周縁化」がしばしば指摘される（山根聡「南アジア・イスラーム研究の意義と眺望」『イスラーム世界研究』第一巻一号）。一つは南アジア・イスラームが非アラブ圏に属していることに起因する周縁化である。アラビア語がイスラームの基本的言語である、イスラームの中心は中東にあるとの単純な理解にもとづくならば、中東に位置せず日常言語としてアラビア語を用いない南アジア・イスラームが研究対象として周縁化されるに十分であろう。第二の周縁化は、南アジアの多文化・多宗教状況のなかでつねに多数派であるヒンドゥー教／ヒンドゥー教徒と比較されることによって生じる。南アジア・イスラームの主要言語の一つであるウルドゥー語の（書記言語としての）成立が比較的後代になるという事情にもより、サンスクリット語仏教文献が古典学において確固たる研究対象になっているのに対して、南アジアのイスラーム文献がそうした地位を得ていないことも第二の周縁化を引き起こす要因と考えられる。この二重の周縁化をいかに克服するのか。これが南アジア・イスラーム研究の最大の課題である。

13 世紀以降のデリー・スルタン朝、16 世紀から 19 世紀半ばまでのムガール朝にみられるように南アジアにおけるイスラームは前近代においても重要な要素であるが、前述のように南アジア・イスラームの個性が際立ってきたのはムガール朝末期から英領インド期を経て、独立運動期、独立後ヒラーファト運動期へと続く近代初期以降である。近代以降の南アジア・イスラームの展開を支えたのが出版活動、出版文化であることは一部の学者が主張しはじめたばかりであり、学界に浸透していないのが現状である（cf. Moinuddin Aqeel, “Commencement of Printing in the Muslim World: A View of Impact on *Ulama* at Early Phase of Islamic Moderate Trends” in So YAMANE (ed.), *Towards Multilateral Elucidation of Islamic Trends in South Asia: History, Thought, Literature, and Politics*, 2010.）。本研究では、近現代南アジア・イスラームを正しく評価するため、つまり前述の二重の周縁化を克服するための基盤として南アジア・イスラームをめぐる出版文化を調査し、データを蓄積することが不可欠であると判断する。

２．研究の目的

本研究が対象とする南アジア諸語イスラー

ム文献（出版物）には南アジア・イスラーム、ひいては南アジア独特の事情が反映する。イスラーム世界では写本の伝統が強かったため、自発的に出版を本格的に導入するのは、ヨーロッパや中国などと比べてかなり遅く、19 世紀末から 20 世紀初めにかけてである。南アジアでも事情は似ているが、出版の導入はエジプト、トルコ、イランなどより若干早く、19 世紀初めにさかのぼる。書記言語としてのウルドゥー語が前面に出てくるのはこうした出版文化を背景としている。そしてその事情により図らずも南アジアはイスラーム世界の先進地域となるのである。それ以前に南アジアで書記言語として使用されたのは主にペルシア語、少し頻度を落としてアラビア語であり、デリー・スルタン朝、ムガール朝の支配層がテュルク系民族であったことからテュルク系チャガタイ語が若干使用された。

まず本研究は、(1)出版文化が生じることによってペルシア語・アラビア語などからウルドゥー語へと主役が移る際にいかなる文献がウルドゥー語をはじめとする南アジア諸語に翻訳され、出版されたのかを具体的に明らかにする。東長靖・中西竜也編『イブン・アラビー学派文献目録』（2010 年）ではイスラーム神秘主義の分野に限りこの課題を扱っているが、それをイスラーム諸学全般に応用したい。これにより、アラビア語やペルシア語（そしてチャガタイ語）文献の何が取捨選択されて南アジア・イスラームの伝統として受け継がれたかの一端が明らかになろう。

本研究が次に明らかにするのは、印パ独立以前にさかのぼり、(2)どの出版社でいかなる南アジア・イスラーム文献が南アジア諸語のうちのどの言語を使って出版されてきたのか、そしてそうした印刷所はだれが担っていたのか、そうした出版物は何を対象としているのかということである。これに関してはムガール朝期、英領インド期、独立運動期、独立後、印パ分離後と五期に分けて分類し、印刷所の地理的状況も加えて、データベース化する予定である。これにより実際にいかなるイスラーム文献が流布したのか、そして印刷文化の担い手を把握することができよう。出版文化に関しては、ムスリムの経営する出版社からイスラーム文献が出版されるとは限らず、またムスリムが必ずムスリムの言語と見なされるウルドゥー語やベンガル語で文献を出版するとも限らないといった例があることに留意しなければならない。ヒンディー語で書かれ出版されたイスラーム文献が少なからず存在するからである。なお、英国植民地支配の結果、南アジアにおける出版文化においては英語文献も大きな地位を占めるため、南アジア諸語には英語も含む。

三番目に、(3)19 世紀初めから出版されてきた南アジア諸語イスラーム文献がどこに流通したのかを明らかにする。既述のように南アジアは地理的には東アジア・東南アジア・中央アジア・中東・東アフリカと接し、それら地域の要衝となる。これらの諸地域へどのようなかたちで何が伝播したのかを調査することは南アジア諸語イスラーム文献、さらには南アジア・イスラームの影響圏を考察する際の大きな礎となろう。

３．研究の方法

南アジア諸語イスラーム出版文献を対象とし、その生成・流通を考察することで、社会が変容するダイナミズムの相のもとに宗教を捉える礎を築くことを目指す本研究は、文献学、思想研究、文学研究、社会学、人類学などの従来の枠組みを越え、横断的総合的に行う。研究方法上の本研究の特徴は、前半に予備研究を行い、その成果をデータベース構築にフィードバックすることにある。認知度の低い分野には何よりも研究者に有用な基盤の形成が重要だと考えるからである。こうした資料的基盤に沿って、本研究参加者は

個々の視点から対象を見直し後半の研究を遂行する。

前近代から近現代へ移り変わる際の、特に近現代の大きな特徴である国民国家をめぐる問題に起因する大きな社会変容は現代南アジア研究の大きなトピックの一つである。そこではさまざまなアクターが想定されており、宗教も重要なアクターに数えられる。しかし何をもって宗教とするのか、宗教的影響の及ぶ範囲をどのように画定できるのかなど不分明な点が多く、充分に議論が尽くされているとは言えない。それどころか議論が拠るべき基盤さえも見当たらない状況である。本研究はこうした状況を踏まえ、宗教およびそれと社会との関係を可視化するための一つの手段として文献（印刷物）を選び、それに注視した研究および基盤形成を行う。

４．研究成果

本プロジェクトでは、2012 年度に京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科が全学経費（大型コレクションの整備）を受けて購入した「モイーヌッディーン・アキール博士所蔵ウルドゥー語文献コレクション」（以下アキール・コレクション）を用いて研究を続けてきた。4 年間の研究成果として、南アジア諸語イスラーム文献データベース（日本語・英語）を一般に公開している。

この研究では、以下のような 3 つの問いを立てた。

(1)出版文化が生じることによってペルシア語・アラビア語などからウルドゥー語へと主役が移る際に、いかなる文献がウルドゥー語をはじめとする南アジア諸語に翻訳され、出版されたのか。これは、アラビア語やペルシア語（そしてチャガタイ・トルコ語）文献の何が取捨選択されて南アジア・イスラームの伝統として受け継がれたか、という問いにつながる。

(2)どの出版社でいかなる南アジア・イスラーム文献が、南アジア諸語のうちのどの言語を使って出版されてきたのか、そしてそうした印刷所はだれが担っていたのか、そうした出版物は何を対象としているのか。

(3)19 世紀初めから出版されてきた南アジア諸語イスラーム文献は、どこに流通したのか

このうち(2)については、本データベースに時空間検索の機能を備えることにより、個別の事例を調べることが可能となった。

(1)については、宗教書や物語文学が代表的なものだということが明らかになった。アキール・コレクションに所蔵されているウルドゥー文学史 (Jamīl Jālibī, 1984,*Tārīkh-e Adab-e Urdū*, Lahore: Majlis-e Taraqqī-e Adab 等)の一連の研究書によって、南アジアでは 15～16 世紀ごろから、アラビア語やペルシア語の宗教書が risāla の体裁で翻訳されていたことがわかる。また、物語文学に関しては、元来サンスクリット語で書かれた *Śukasaptatiḥ* (『鸚鵡七十話　インド風流譚』田中於菟弥訳、平凡社東洋文庫、1963)が、14 世紀初めにペルシア語に翻訳されて *Tūtī Nāmeh* となるが、前述のとおり、19 世紀初めにイギリス人が簡明な北インドの口語体(ヒンドゥスターニー語=ウルドゥー語)の教科書を編纂するうえで、これをハイダルバフシュ・ハイダリー(Ḥaidar-Bakhsh Ḥaidarī)という文人を使って *Totāaa Kahānī*(『鸚鵡物語』)として刊行させたことなどが知られている。

アキール・コレクションには、こうしたアラビア語やペルシア語からウルドゥー語への翻訳の過程に関する文献、研究書が豊富に所蔵されているほか、南アジアで執筆されたトルコ語文献、ペルシア語文献（スーフィー伝記、詩集等）も所蔵されている。

また、ムガル朝期には、上に述べたペルシア語・アラビア語・トルコ語だけでなく、

サンスクリット語からの翻訳もさかんに行われていた。

現代の南アジアが、南アジア固有の諸言語や英語による多言語空間である、という事実は周知のことであるが、実は 1 世紀近くさかのぼると、アラビア語、ペルシア語、トルコ語といった西アジアの諸言語もこの多言語空間に含まれつつ、それらの翻訳活動が行われていたことが、本文庫所蔵の文献を検証することによって明らかとなった。

(3)については、東南アジアが最も多く流通した地域であるが、ほかにもアラブ諸国や東アフリカなどが含まれることが判明した。アキール・コレクションにある 19 世紀半ば以降のイスラーム復興に関する研究書によって、デーオバンド学院への東南アジアからの留学生が、ウルドゥー語で学んだ知識を祖国に持ち帰り、復興運動を展開した経緯が明らかとなるうえに、マウドゥーディーの書簡集等によって、彼の著作がアラビア語に翻訳されたことも実証的に示すことができる。

これらを、抽象的な理論でなく、データベースによって具体的に示したところに本研究の特徴があり、今後の南アジア・イスラーム研究に資するところ大きいと考える。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　56　件）

1. 東長靖・山根聡　「特集　南アジアイスラーム文献の出版・伝播２　序文」『イスラーム世界研究』査読有、9 巻、2016 年、113-117 頁、　DOI：10.14989/210343
2. Tonaga, Yasushi & Yamane, So ‘Editor’s Note to the Special Issue: The Publication and Transmissioni of Islamic Books in the South Asian Languages 2”“Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies,” 査読有、9 巻、2016 年、113-115 頁。
3. ムハンマド・アースィフ著　山根聡訳・補「アキール文庫のイクバール学コレクションについて」『イスラーム世界研究』査読有、9 巻、2016 年、149-164 頁、DOI: 10.14989/210337
4. ムハンマド・アースィフ著　山根聡訳・補「アキール文庫　サイイド・アフマド・ハーンとアリーガル運動関連文献」『イスラーム世界研究』査読有、9 巻、2016 年、165-171 頁、　DOI：10.14989/210336
5. ムハンマド・アースィフ著　山根聡訳・補　「アキール文庫　現代ウルドゥー詩関連文献――ファイズ、ラーシド、マジード・アムジャド、ミーラージー、アフタル・シーラーニー」『イスラーム世界研究』9 巻、2016 年、172-181 頁、DOI：10.14989/210335
6. 松村耕光　「アフマド・ハーンのイギリス旅行記について」『言語文化研究』査読有、41 巻、2015 年、149-161 頁。
7. 東長靖「小特集　南アジア・イスラーム文献の出版・伝播１　序文」『イスラーム世界研究』査読無、7 巻、2014 年、141-142 頁。
8. Yamane, So ‘The Horizons of Islam in South Asia: Iqbal and Maududi“Armaghan-e Rafi ud-Din Hashmi, Rawalpind: Al-Fath Publications,” 査読無、2013 年、63-105 頁.
9. 松村耕光　「ムハンマド・フサイン・アーザードのペルシア詩論について」『言語文化研究』査読有、40 巻、2014 年、143-152 頁。
10. 小杉泰「南アジアとイスラーム：知的ネットワークと民衆運動―イスラーム世界論から見た研究の射程と課題」『南アジアとイスラーム：知的ネットワークと民衆運動』NIHU プログラム「イスラーム地域研究」「現代インド地域研究」査読無、2013 年、1-17 頁。
11. 田辺明生「近代インドとイスラーム世界―分離独立をめぐる代表政治とトランスナショナルな民衆運動」『南アジアとイスラーム』人間文化研究機構（INDAS/KIAS）査読無、2013 年、37-50 頁。
12. 山根聡「英領インドにおけるウルドゥー語出版とムスリム知識層の台頭」『アジアのムスリムと近代―1930 年代出版物から考える―』査読無、2013 年、3-26 頁。
13. 山根聡「南アジアとイスラーム　知的ネットワークと民衆運動」『人間文化研究機構地域研究推進事業・イスラーム地域研究・現代インド地域研究連携事業』査読無、2012 年、19-36 頁。

〔学会発表〕（計　42　件）

1. 山根聡　「ウルドゥー語とイスラームの親和性について」「南アジアとイスラーム」シンポジウム「英領インドにおける諸宗教運動の再編―コロニアリズムと近代化の諸相」2014 年 10 月 3 日、京都大学
2. Kosugi, Yasushi ‘ Forming a New

Stage of Islamic Studies in the Global Age: Asian Initiatives ’“ 2nd UBD-KU Joint International Seminar: New Horizons in Islamic Studies” 2013 年 11 月 25 日、ブルネイ・ダールッサラーム大学。

3. Yamane, So 'A Study of the Sophisticated Terms in Urdu Writings on Cuisine Culture under the British Raj’ “ Food in History” 82nd Angro-American Conference for Historians, 2013 年 7 月 12 日、University of London.
4. 小杉泰「南アジアとイスラーム：知的ネットワークと民衆運動―イスラーム世界論から見た研究の射程と課題」アジア政経学会 012 年度全国大会　分科会 3、2012 年 10 月 13 日、関西学院大学（西宮上ヶ原キャンパス）。
5. 山根聡「ウルドゥー語と都市文化―食文化を通した語彙の洗練とトポフィリア」日本南アジア学会、2012 年 10 月 7 日、東京外国語大学(東京都)。
6. 山根聡「アキール文庫について」「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」研究会、2012 年 12 月 14 日、京都大学。

〔図書〕（計　14　件）

1. ムハンマド・アースィフ　(山根聡日本語訳・補注)『京都大学所蔵アキール文庫イクバール関連文献カタログ』京都大学イスラーム地域研究センター、2016 年、186 頁。
2. 東長靖・松村耕光・山根聡編、加賀谷寛著『南アジアの政治と文化』京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科付属イスラーム地域研究センター、2014 年、388 頁。
3. Yamane, So ‘ Urdu Works of Abual-A’la Maududi: An Annotated Bibliography,’ 京都大学イスラーム地域研究センター、査読無、2014 年、114 + xiv 頁。
4. 山根聡監修『マウドゥーディー著作目録と解題』人間文化研究機構地域研究推進事業・イスラーム地域研究・現代インド地域研究連携事業、2013 年、112 頁。
5. 山根聡ほか編、加賀谷寛著『南アジアとイスラーム』人間文化研究機構地域研究推進事業・イスラーム地域研究・現代インド地域研究連携事業、2012 年、527 頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

○取得状況（計　0　件）

〔その他〕

ホームページ等

科学科研費基盤研究（B）「南アジア諸語文献の出版・伝播に関する総合的研究」アキール文庫データベース

http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/aqeel_db/index.html

Grant-in-Aid(B),JSPS,Aqeel Collection Database

http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/aqeel_db/en/index.html

６．研究組織

(1)研究代表者

東長　靖　（TONAGA, Yasushi）
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科　教授
研究者番号：70217462

(2)研究分担者

小杉　泰　（KOSUGI, Yasushi）
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科　教授
研究者番号： 50170254

田辺　明生　（TANABE, Akio）
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科　教授
研究者番号：30262215

山根　聡　（YAMANE, Satoshi）
大阪大学・言語文化研究科　教授
研究者番号：80283836

松村　耕光　（MATSUMURA, Takamitsu）
大阪大学・言語文化研究科　教授
研究者番号：60157352

井上　あえか　（INOUE, Aeka）
就実大学・人文学部　教授
研究者番号：30388988

今松　泰　（IMAMATSU, Yasushi）
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科　特任准教授
研究者番号：80598938

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：